

7月5日(月曜日)

ドル/円

手掛かり材料難の展開か

2日(金)の主な推移

チャート: 30分足 2日(金)朝6時 ~ 3日(土)朝6時

ダウ平均株価

9686.48ドル
(-46.05ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

2.9788%
(+0.0246%)

NY原油先物

72.14ドル
(-0.81ドル)



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

- ① 日経平均株価が高く寄り付いた後も概ね堅調に推移したことや、円高進行に伴い本邦実需筋によるドル買い・円売りが出たことにより、ドル/円はストップ高を巻き込む上昇となり、11時過ぎに高値88.22円を記録した。
- ② 米6月雇用統計を前に、ポジション調整によるドル売りによりドル/円はじり安基調が続き、雇用統計発表前には87.47円まで下げる場面が見られた。
- ③ 米6月雇用統計は強弱入り乱れる結果となった。まず失業率は9.5%と予想(9.7%)を下回り、2009年7月以来の水準に低下したことが好感され、発表直後ドル/円は88.15円まで上昇した。だが非農業部門雇用者数は-12.5万人と予想(-13.0万)とほぼ変わらず、民間部門の雇用者数も+8.3万人と予想(+11.0万人)を下回った結果を見て、ドル/円は87.33円まで急落した。しかし民間部門の雇用者数も予想を下回ったとはいえ増加していたことから、一段とドル売りを進める力は乏しく、その後ドル/円は87円後半でのみあいとなった。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 86.90— 88.30円

本日は米国市場が休場につき取引参加者の減少が見込まれる。また他にも主だった経済指標の発表が予定されていないことから、ドル/円は方向感に欠ける展開が予想される。ただ、取引の薄いところを突く参加者が出る可能性が無いともいえないため、不意の乱高下には気をつけたい。

また先週末に発表された米国商品先物取引委員会(CFTC)の国際通貨先物市場(IMM)の円先物では、円ロングが前週比で2万枚以上の大幅増加となり、2万7427枚の買い越しとなった。先週末ドル/円は86.95円まで円高が進み、昨年12月以来の円高水準となった割には、今年3月に記録した直近の円ロングのピークである3万2552枚より少ないことから、ここから先は円高が進行する余地が乏しい可能性がある。ただ一方で円ロングがそれよりも増加する場合、市場での円先高観が強まる可能性がある(川畑)

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
7/5(月)	—	—	米国休場(独立記念日の振替休日)	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com